令和５年度大阪府がん対策推進委員会第２回小児・AYA世代のがん対策部会（概要）

1. 日　時：令和６年３月５日（火）～令和６年３月１５日（金）（書面開催）
2. 議　事：第３期大阪府がん対策推進計画の進捗管理について

報　告：（１）大阪府小児がん拠点病院の更新について

（２）令和６年度新規事業について

1. 委員からの意見要旨

議　事：第３期大阪府がん対策推進計画の進捗管理について

【意見要旨】

○遠隔コミュニケーション環境整備事業について、有効活用の観点から、各病院で分身ロボットを管理するのではなく、1箇所でまとめて管理し、利用しやすい環境にしてもらいたい。

○小児・AYA世代のがんについての正しい知識の普及に対しての取り組みがないように思う。がん教育はむしろ、がんと生活習慣を結びつける内容なので、そこと関連のない小児・AYAがんに関しては誤解を広める可能性が懸念される。何らかの対策が必要。

○次年度の取り組みについて、連携する患者団体を限定するような記載になっているが、多様ながん患者をはじめとする関係者との連携の可能性を残した記載にした方が良い。

○小児の妊よう性温存について、どのような方法が対応可能か医療機関ごとに提示してもらいたい。

【審議結果】

承認

報　告：

1. 大阪府小児がん拠点病院の更新について

意見なし

（２）令和６年度新規事業について

　＜地域統括相談支援センターモデル事業＞

【意見要旨】

○相談支援

・小児・AYA世代への相談支援も可能な体制を作ってもらいたい。

・がん相談支援センターで対応するものが多岐にわたっているため、集約化してもらえると助かる。

○がんサロンは大人のがん患者用というイメージがあり、小児やAYA世代は少し使いにくい印象があるため、病院のソーシャルワーカーなどからスムーズに情報提供ができたり、相談支援センターにつなげてもらえるとありがたい。

○ピアサポーターの養成について、小児・AYA世代の特徴は多様性であるため、多様な患者の多様な悩みに対応できる仕組みの検討と、人材の育成をお願いしたい。

＜小児がん治療経験者長期フォローアップ支援事業＞

　　○現在病院とつながっていないがん経験者への啓発

・現在主治医がいない、就学や就職で地元を離れた、などの病院と繋がっていない経験者への啓発（例えば会社の検診などでのリーフレット配布など）も合わせて整備してもらいたい。

・若い世代にリーチできるようSNS等、新たな周知の方法にトライしてみる必要がある。

・各医療機関からの長期フォローアップから漏れている方に案内が届くよう、小児慢性特定疾患のデータを活用するなどしてもらいたい。

○二次がん検診費用の更なる補助拡充が必要。

○大阪には移行期医療支援センターもあり、長期フォローアップと連携して成人科への不安の少ないスムーズな移行が行えるよう、二次がんが見つかっても成人科での早い治療に進めるよう、お願いしたい。

○患者の利便性を考え、検診機関が府内に点在する必要があると思う。少子化、患者数の減少があっても、検診機関は確保できるよう留意すべき。